平成１９年度　病害虫発生予察特殊報　第２号

平成 19 年(2007 年)10 月 22 日
山 口 県 病 害 虫 防 除 所

１　病 害 虫 名　　トマトすすかび病
（病原菌：*Pseudocercospora　fuligena*（Roldan）Deighton）

２　作　物　名　　トマト

３　特殊報の内容　　新発生

４　発 生 経 過
（１）発生確認月日：　平成１９年１０月１０日
（２）発　生　地　域：　阿東町嘉年
（３）発　生　状　況：
阿東町の施設栽培トマト(栽培型：半促成　品種：麗夏)の葉に、葉かび病に類似した病斑が認められた。農林総合技術センターで診断したところ、本県では未発生のトマトすすかび病と診断した。本病は６ほ場調査中２ほ場で発生が認められ、発病株率は２０％であった。

５　本病の特徴
（１）病徴
発生部位の葉は、初め葉裏に不明瞭な短黄緑色の病斑を形成し、やがて病斑上に灰褐色粉状のかびを生じる。その後病斑は円形または葉脈に囲まれた不整形となり、灰褐色から黒褐色に変わる。葉表には不明瞭は淡黄褐色の病斑が生じ、その上にもかびが生じるが葉裏に比べ少ない。病勢が進展すると葉全体がかびで覆われ、著しい場合は葉が枯死する。本病はトマト葉かび病に類似しているが、顕微鏡下で観察すれば分生子の形状から容易に判別できる。
なお、本病は品種の葉かび病抵抗性の有無に関係なく発病する。
（２）病原菌の特徴
本菌は、糸状菌の一種で不完全菌類に分類される。分生子は淡褐色、鞭状または円筒形で先端は少しくびれ、小型の油胞が存在する。分生子の大きさは不同で０～１５個の隔壁を有する。本菌の生育適温は２６～２８℃、分生子の発芽適温は２６℃付近である。
（３）伝染環
罹病した植物残渣上で生存し、分生子の飛散により風媒伝染する。
（４）他県での発生状況
本病は 1951 年に中部地方(島根では 1948 年に岐阜県とも)での発生と被害が報告され、しばらく報告がなかったが、近年では平成８年３月に宮崎県、平成１６年３月に徳島県で発生が確認され、現在では西日本を中心として１６県で発生が確認されている。

６　発生地域における今後の防除対策

（１）発病葉や残渣は伝染源となるため、ほ場外に持ち出し、埋めるなどして処分する。
（２）多湿条件下で発生しやすいため、密植、過繁茂を避け、換気に努める。

表　トマトすすかび病および葉かび病の外観比較

	トマトすすかび病	トマト葉かび病
葉表の病斑		
葉裏の病斑		
分生子の形状		